

知っていましたか！山形と茨城の意外な関係！

モンテディオ山形サポーターのみなさん、ようこそ水戸へ！
さて、モンテディオ山形には、水戸ホーリーホックに在籍経験のある選手が2人います。
わかりますか？ 答えは・・・おわりにあります☆
このほか、『山形』と『茨城』の意外な関係を調べてみました。みなさんはいくつ知っていましたか？

その1：山形と水戸の歴史的つながり

山形藩初代藩主、最上義光（もがみよしあき）の四男、山野辺義忠（やまのべよしただ）が、水戸黄門として有名な水戸藩主徳川光圀（とくがわみつくに）の教育係であったことを知っていましたか？今で言う「非行少年」と心配された千代松（後の光圀）は、家老山野辺義忠の指導のもと、青年時代から急速に変貌をとげ、ついには名君と仰がれるようになりました。義忠の子、義堅（よしかた）も光圀に仕えるなど、最上家の血筋は水戸徳川家を支える名門として伝えられています。



最上義光公勇戦の像
(霞城公園)

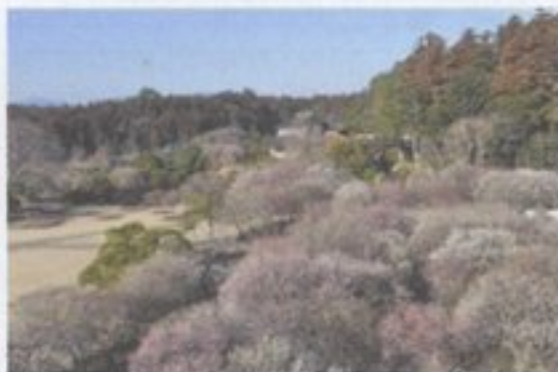


徳川光圀公肖像画
(京都大学付属図書館蔵)



銘菓「のし梅」

梅肉を使い、主に砂糖と寒天で作ったゼリーを、昔ながらの竹皮に平たく伸ばして短冊状に挟み込んだ菓子。フレッシュで爽やかな梅の酸味と、ゼリーのしなやかな歯ざわりが特長。



偕楽園

金沢の兼六園、岡山の後楽園とともに日本三名園のひとつ。1842年、水戸藩第9代藩主徳川斉昭公により、領民の休養の場として開園。園内には100種3,000本の梅が植えられ、2月下旬から3月下旬にかけての「梅まつり」は多くの観光客で賑わいます。

その2：銘菓「のし梅」

茨城県には全国屈指の梅見処である「偕楽園」があります。当園の観光土産として、おすすめするのが「のし梅」です。茨城県民なら一度は見たことのある水戸の定番銘菓です。実は、この「のし梅」の製法は山形から水戸に伝えられたという説があることを知っていましたか？江戸時代より紅花の生産が盛んであった山形では、紅花から色を抽出する際、梅の酸を用いていたため、梅の生産も盛んであったことから、梅の実を用いた菓子が広まったそうです。

その3：データでみる山形と茨城の関係

住宅・土地統計調査報告（総務省）によると平成20年10月1日現在の「住宅敷地面積（1住宅あたり）」の全国順位は、1位が茨城県で429㎡、2位が山形県で403㎡であることを知っていましたか？全国平均は266㎡とのことから、山形県民、茨城県民は全国的にみて、広くゆったりとした環境で生活できているようです。

【答え】



①ロメロ フランク 選手
(背番号24)



②作田 裕次 選手
(背番号25)

◇茨城県 企画部 地域計画課
TEL 029-301-2730

◇水戸ホーリーホック・ホームタウン推進協議会
(水戸市 市長公室 地域振興課)
TEL 029-232-9105

☆茨城県の観光情報は

観光いばらき



で検索！